R I. 第2620地区　静岡第2分区
三島西ロータリークラブ
週報
第1987号

事 務 所　静岡県三島市中央町4番9号　2F
TEL〈055〉976－6351　FAX976－6352
例 会 場　静岡県三島市梅名393－1　ブケ東海三島
TEL〈055〉984-0120
会　長　諏訪部照久　　幹　事　千葉　慎二

広重版画より　三島　朝霧

第2050回例会

2014.11.27晴

司　　会　栗原達治君

ロータリーソング　「それでこそロータリー」
指揮　古川喜仁君

“こんにちは、ようこそ”

ビジター　渡邉妙子君（三島RC）

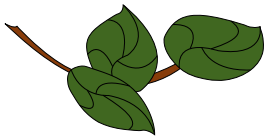
会長挨拶

会長　諏訪部照久君

皆さんこんにちは、今日の卓話は小野金彌さんにお願いしてありますが、時間を40分頂きたいとの依頼がありましたので、卓話を優先しますのでご了承願います。尚これからも、そのような依頼がありましたら、遠慮せずにお申し付け下さい。それでは、これをもちまして、本日の会長挨拶に代えさせて頂きます。

おめでとう

会員誕生日　登崎君
奥様誕生日　窪田君



出席報告

	出席総数	出　席　率	メーク アップ	修　正 出　席　率
前々回	36/43	83.72%	39/43	90.70%
今　回	35/43	81.40%	会員総数	49名

欠席者　遠藤（正）君、大畑君、勝間田君、椙山君、
鈴木（正）君、野田君、前田（房）君、柳田君

幹事報告

幹事　千葉慎二君

①本日は小野さんの卓話。
②来週12月4日（木）、例会前11:40より、第2回理事指名委員会を開催しますので、指名委員の方はご参集下さい。続いて理事役員会を開催します。
③12月の第2例会（11日）はクラブ協議会。上半期の委員会活動報告をして戴きます。各委員長はお一人2～3分で報告をお願いします。
④RI会長ゲイリー・ホァンご夫妻をお迎えしてのジャパン・ロータリーデーが2月4日（水）、東京にて開催されます。登録料は17千円。参加ご希望の方は幹事の千葉まで。

2014～2015年度
国際ロータリー会長
ゲイリーC.K.ホァン

ロータリーに輝きを

卓　話

私の人生

小野金彌君

1.誕生から終戦まで

私は大正12年5月生まれで現在91歳になります。父が請負人として信濃川の支流中津川の水力発電の工事をやっていた頃、新潟県の十日町近くの積雪量日本一の津南町で生まれました。小学校一年の終りまで居て、次に移り住んだのが（昭和6年）新潟県の西の日本海沿いの能生町（現在の糸魚川市）で昭和14年まで住んでいました。

私が小学校4年生の終り頃、姉の女学校の進学問題が浮上し、その頃或る工事で大損をしてまだ負債をかなり抱えていた父は「お前は女学校に上げない。金彌は長男だから中学校だけは上げるが、あとは苦学するなりして上に行け。」ということでありました。結局姉も学校の先生のすすめもあって女学校に上ることが出来たのですが、私にとって将来何になるか決めざるを得なかったのです。

時代は満州事変が終り、軍縮の時代から軍備拡張に入った頃で、講談社発行の少年クラブで、陸軍幼年学校の生徒の生活を扱った小説「星の生徒」を見て胸を膨らませていました。幼年学校は多少月謝が要るが、その後の学校は若干の給付金がいただけることが魅力で、職業軍人になろうと思ったわけです。

中学二年（昭和12年）の時母が亡くなり、その供養の為にも幼年学校にどうしても合格を果たしたいと思い、試験前4ヶ月位一生懸命勉強し、幸い合格し仙台の陸軍幼年学校に入校することが出来ました。

陸軍幼年学校は陸軍士官学校の附属の様な学校で、明治天皇の思召しで設立されました。所謂ゆる「青田刈り」ともいうべきものです。教育はそれなりに充実したものでしたが、先輩は太平洋戦争中陸軍の指導層の主体を占めて活躍しましたが、反省すべき点が非常に多かったと思っています。

昭和13年に幼年学校に入り、16年幼年学校を卒業し市ヶ谷（現在防衛省がある）の陸軍予科士官学校に入り、その年の暮の12月8日太平洋戦争が始まりました。やがて私共の最も関心の高い兵科と勤務地が決められることになります。当時私が所属していた区隊長は湯田光臣という鹿児島県出身の方でした。此の方は軍人らしからぬ温厚な方で偉ぶる所は微じんもない方でした。それでいて中国戦線で據点を占領し数10倍の敵を1ヶ月にわたって防いだ功績により軍司令官から感状をいただいた勇士でした。

私は軍人として理想の方と考えあやかりたいと強く思い歩兵になることを望み、南方第一線部隊を希望し、歩兵で当時ビルマの第一線で活躍していた55師団の歩兵112聯隊に配属されることになりました。（そこで約3ヶ月112聯隊の原隊である四国丸亀で隊付勤務を終り）

此の年10月地上兵科の私共は座間の士官学校に入学し、将校になる為の最後の過程の教育鍛錬を受け19年4月20日天皇陛下が行幸され、私共の卒業式が行われました。

毎年士官学校の卒業式に陛下が行幸されるのは恒例とはいえ大変光栄の極みでした。

戦局はみなさん御存知だと思いますがガ島撤退後ニューギニヤやビルマで苦戦が始まっていました。

私共の前の期までは卒業と同時に見習士官となり夫々配属の部隊に赴任していましたが、私共の期は見習い士官として更に対米戦闘訓練を夫々の兵科別の学校（歩兵学校とか戦車学校等）で訓練を受け7月1日訓練修了と同時に陸軍少尉に任官し、夫々配属部隊に赴任することになりました。

当初我々ビルマ戦線に赴任する者は軍艦又は輸送船で行く予定で、家で出航の連絡を待って居ました。そこへ突然私に内地残留の電報が来て富山の本土決戦部隊に赴任することになりました。6月サイパンが陥落していよいよ本土に敵を迎えて撃つという国家の方針に基くものでした。そして新しい部隊が動員編成されることになったわけです。ビルマに行く我々55師団の歩兵三ヶ聯隊から各一名が残留させられ、他の各4名計12名は其の後飛行機で赴任して行き一年たらずの間にその半数が戦死してしまいました。

私の残留に際しての気持は今の人達には理解出来ないと思いますが、6年も立派な軍人となるべく鍛錬を受け自ら志して、南方第一線に出て戦う決心でいた者が内地に残される苦衷は残念でたまりませんでした。よかったねなどと甘い言葉をかけて呉れる者に物凄く憤りを感じたことをよく覚えています。

私は武運拙く内地に残留させられたわけです。

富山聯隊では私共同期生が各中隊に配属され、補充兵や初年兵や部隊の幹部候補生の訓練に携っていました。朝鮮兵はそれまでは志願制度でしたが、私共が行って間もなく朝鮮人にも徴兵制が適用され第一回目の兵隊も扱いました。朝鮮出身兵隊の教育の思い出もありますが省略します。

富山で編成した部隊はやがて御殿場の廠舎跡（滝ヶ原廠舎）を兵舎に改造し、そこを一応の根拠地とし引越して来ました。やがて20年の2月豊橋の陸軍豫備士官学校で在学中の特別甲種幹部候補生（大学や高専の在校生の中から選抜し一年間で少尉に任官させ第一線の下級将校を補充する制度）の区隊長の命令を受け豊橋に赴任しました。5ヶ月間彼等の教育を担当し6月10日には卒業して各地部隊に送り出しました。その後間もなく16日に豊橋が静岡と同じ日に米軍のB29の一大空襲を受け焼夷弾の爆撃により豊橋の市街地は見る影もなく焼け、1000人以上の焼死者が出ました。私は空襲の時は営外居住者で、市の東端の菓子製造会社に下宿していましたが、下宿先から降りそそぐ焼夷弾の間をぬって学校に到着し九死に一生を得ました。

豊橋に於けるもう一つの思出は賀陽宮邦壽王殿下が其の頃予備士官学校の中隊長をしておられ親しく御指導を受けたことです。(殿下は我共の幼年校、士官学校の二期先輩)

次の特甲幹の入学準備をしている時7月20日、母校である士官学校で後輩に当る60期生の区隊長に任命され赴任し、一ヶ月で終戦を迎えることになりました。

終戦直後近衛師団の血気にはやる戦争継続派の一部の若年将校が、師団長を殺したり終戦の詔書の録音盤奪取を企て失敗した事件がありました。

終戦の直前は私共士官学校は生徒を連れて軽井沢の奥の浅間山の麓で訓練中でしたが、8月17日頃だと思いますが、そこへ彼等の一部が入って来て私共区隊長に終戦は天皇陛下の大御心ではない。士官学校も蹶起してくれるように勧誘に来ました。終戦の詔書は既に発布されており、そこでこの国家の大事に軽はずみの事は出来ないと思い、当時八王子で東京陸軍幼年学校の生徒監をやって居られた賀陽宮邦壽王殿下をお訪ねし8月10日の皇族会議での模様を承って陛下の大御心であることを確信し、自信を以て爾後の行動を制御出来たことを心から感謝申し上げている次第です。

2.第二の人生として建設業に入って

戦争での荒廃しきった日本で最も先に脚光を浴びるのは建設業ではないかと考えましたが、父も終戦直後は一時休業の型で、私も高崎の部隊の開墾地で農業を手伝っていました。

それから年が代る少し前、(昭和20年12月)進駐軍の仕事が始まりました。私のところでも立川基地の改造を請負うことになりましたので、家に帰って父の事業の手助けをするようになりました。大学に入ることを進める友人もいましたが土木建築に関する講義録で勉強しながら実務を研修して行くことにしました。大家族でしたし、父が育てた若い者達の中には戦死した者も数人あり、父も私に期待していた事は疑いありません。

進駐軍の仕事をやって先づ驚いたのが、隣接地で作業するD7、D8というブルドーザーという重機械の偉力でした。こんな物を持つ国と良く戦って来たということです。ガダルカナルの飛行場が日本人の手では一ヶ月以上もかかるものが一週間もかからないでアメリカ軍は作ってしまうという夢のような話を聞いてはいましたが現実に見て驚きました。進駐軍関係の仕事と併行して日本で始まったのが食糧増産のための化学肥料工場の整備で、(昭.22)復興金融公庫の融資で始まり、私の所では昭和電工富山工場の大改築工事に関係させていただきました。(この復興金融公庫の汚職事件はやがて(昭和23年10月)芦田内閣が倒れる事件に発展しました。)もう一つはエネルギー確保対策として進められた石炭増産対策の事業で私の所でも北海道の夕張や芦別の炭鉱住宅の建築工事に携って来ました。

国民が待望していた大戦中手がつけられなかった災害復旧事業や、其の他の公共事業が行われるのはその後の事です。

戦後の社会は流通制度が破壊された状態で、政府の機能も働かず極端な食糧不足で、ヤミが横行し買出しに出る人達で汽車が溢れる状況であるのに加えて、復員兵や外国から引揚げて来る人も加わって、物すごい混乱とインフレの時代でした。

昭和20年終戦から昭和21年、22年、23年頃のインフレは大変なものです。私のところは仕事量では比較的恵まれていましたが請負という性質上決済が長引きますので、インフレに非常に弱い商売です。昭和23、24年頃と思いますが、当時工事の始まりの頃50円だった日当が工事の終り頃には100円になったということもありました。終戦の時の私の月給は120円位だったと思います。当時鉄道運賃が3年で7.6倍、郵便も15倍、タバコ(ピース)で5倍の値上りです。

父は超大手の名義人という一次下請で戦中戦後全国を営業範囲にしていました。東京に本據を置きましたが強制疎開で当時中島飛行機の三島工場の建設工事中で三島に引っ越して来ていました。そして従業員や配下の人たちの家族の幸福を考え、全国の狩猟的営業から地域に根差した集約農業的な営業に切り換えることに方針を変更し本據を三島に定め株式会社にしたのは昭和23年で、建設省が新しく発足した年でもあります。父が酒が過ぎて脳梗塞となり暫く養生せざるを得なくなって私が社長を継いだのが28歳の頃です。

海千山千の経営者の多い建設業の中にあって、若造で而も軍人生活で培われた正義感を以て生きることは中々大変でした。然し世の中は良くしたもので、私の仲人であった中林建設の社長や熱海の青木建設の初代社長には大変御指導をしていただいた事を忘れることは出来ません。当時(昭和27年)わが社に大きな問題が持ち上りました。それは土肥沼津線の道路改築工事が始まったばかりの頃です。請負った某業者が工事途中で倒産し、私の会社が保証人であった関係で、代って施工するよう県から催促されました。そこで私共の会社で現地を調査した所、設計の線型を勝手に変更するやら、出来高の倍位の金が県から某社に支払われていることが判明しましたので義務の履行をお断りしていました。完成させるには当時の金で500万ばかり私の会社が損失を覚悟しなければなりませんでしたので、断り続けていました。最後に県庁から道路課長が来て、『君を男と見込んで頼む』と平身低頭するものですから遂に引き受けて工事を完成させたことがあります。県や市町村の工事の管理が不行届な頃の代表的事件であったと思います。

発注者と請負人が工事途中大きな災害をうけたり、鉄筋等の建設物価の急騰にあたってある程度損失を補填されるようになったのは東京オリンピックの後になります。

昭和33年狩野川台風で修善寺の熊坂を中心に1000名余の犠牲者を出したことは御存知だと思います。兎に角物凄いものでした。私の会社で営林署の持越林道（伊豆市、湯ヶ島の奥）で木橋三本を鉄筋コンクリートに換える仕事を請負いその施工途中でした。9月26日から27日の朝方にかけて天城山を中心に降った豪雨による災害でした。28日夜現場員が災害地を苦労して歩き続けて帰社して報告したのを受け、私が爾後処理を打合せの為、翌29日湯ヶ島の営林署に行くことにしました。自転車を使い乗ったり、引いたり、担いだりして、被災地を通り出来て間もない鉄筋の矢熊橋のたもとの商店に自転車を預け、右岸に渡り徒歩で湯ヶ島にあった営林署にたどり着いたのが夕方でした。そんなことで当時の災害の状況は頭にこびり着いてよく覚えています。修善寺橋下の川沿いの人家の多くが流され田方平野は一面水に溢れ、出来て間もなかった長岡の千歳橋と矢熊橋が残っただけで、さがさわ橋、修善寺橋、大仁橋、大門橋、松原橋、石堂橋、徳倉橋等ことごとく流失し函南、韮山、大仁などの耕地や人家は殆ど水びたしで、道路には流失物に混じって牛馬や家畜の死体が混じって散乱し、惨状は見るに耐えないものでした。当時消防団は遺体捜索が主で最も早く復旧に当たったのは自衛隊で、大仁橋では自衛隊により簡単な渡河桟橋が作られていました。

伊豆地域は昭和33年の狩野川台風による災害以来34年災、36年災と災害が続き、その復旧工事が終了したのは38年頃です。戦後の日本を多少潤したのが昭和25年勃発した朝鮮戦争でしたが、それ以降次第に日本の復興が軌道に乗り、昭和39年の東京オリンピックをはさみ、神武景気とか岩戸景気といわれる好景気が続いて行きますが、皆様十分御承知のことだと思います。私の会社でもその間修善寺と三島に生コン工場を設立し、建設工事と併せ地域の発展に努力している所です。

昭和38年、まだ一般市民の海外渡航は許されない時代でしたが、アメリカの姉妹都市パサディナの御招待を受け三島市の代表に加えていただいて（当時三島市の建設業界の会長）二週間パサディナを始めロスアンゼルス、ニューヨーク、ワシントン等を視察する機会があり、デトロイトではフォードの自動車組立工場を見学し、アメリカの科学の進歩に本当にビックリしました。トヨタとは未だ相当開きがあった時代です。その他アメリカの日常生活や行政の合理的な点も同様でした。そしてアメリカ旅行で御一緒した土屋新作さん（当クラブの第三代会長、長泉の米山邸を買上げられ、そこにお住いであった。）のお誘いをうけて三島RCに入会したのが、丁度ガハナー（当時静岡ガス社長）の上野次郎吉さんが公式訪問された8月7日でした。当時の会長は長岡の松本重造さんで幹事は野田隆興さんでした。

やがて11代会長大場朋世さんの時（1967,昭.42）幹事をさせられました。その時の大きな問題はロータリーの拡大であり、会員の増強をはかる一方で、新クラブを増やすことでした。三島RCにも1クラブ設立するよう圧力がかかっていました。その時は好機到らず設立の検討のみで終りましたが、やがて1972年清水町の高野雷さんが特別代表に選ばれ、大場朋世さん、土屋新作さん、高桑昇さん、勝又一郎さん、野田隆興さん等の御骨折によって当三島西クラブが設立されたわけです。当時は三島駅から松韻さんの前の道路が三島RCと西RCの境界線でしたが、在籍年数によりどちらに入ってもよいという規定により大場さんの誘いもあって私も西RCに入ったわけです。そして初代会長大場さんの豪放磊落のお人柄によって『楽しいクラブにしよう』を合言葉にスタートを切ったわけです。

3.民間人としてその後の人生の紆余曲折についてもお話をしなければなりませんが時間が有りませんので今日はこれで終ります。私の生涯は神仏の御加護と皆様の温かい御支援によるものだと感謝の気持で一杯です。

本日は長時間御静聴ありがとうございました。終ります。

スマイルボックス

◆窪田君、昨日雨風の中、東京中央木材市場、欅祭でたくさんの板を仕入れできました。特に7mの幅広欅カウンターを競り落としました。とてもよかったです。

◆ゴルフ同好会、11月24日富士箱根カントリークラブにてゴルフコンペを行いました。優勝伊丹さん・準優勝前田房江さん・3位柳田さんでした。次回は12月14日に三島ゴルフクラブで行います。

◆藤江君、現在11月定例議会のため早退します。

◆石井（良）君、朝、扉を開けたら雪化粧の富士山がとてもきれいでした。ということでステキナ日になりそうな予感がしますが、早退いたします。

◆坂本君、本日早退します。

（週報担当:佐野宏三）